平成 30 年度

はなみずき　12月号

シャーロット日本語補習学校通信　　2018. 12. 1 補習校事務局

教育目標

あかるく
なかよく
たくましく
「あ、な、た」が大事

今月の予定

12 月 8 日
餅つき大会
10:00～幼稚部
10:30～小1・2
11:00～小3・4
11:25～小5・6・中1
11:50～中2・ﾜﾃﾞﾙ校
12:15～中3・高等部

保護者の方も試食できます！
お気持ち募金歓迎

12 月 22 日
12 月 29 日
冬季休暇

1 月 5 日
全校集会
8:40～　体育館

全校生徒数
141 名

目標を掲げ挑戦し続けよう！

2018 年も残すところ 1 ヶ月となり、年の瀬が押し迫ってまいりました。サンクスギビング、ブラックフライデー、サイバーマンデーも終わり、街のあちらこちらでは一大イベントのクリスマスを迎える準備が整ってきております。

2018 年を振り返るには若干早いですが、皆様にとって 2018 年はどのような年だったでしょうか？ “一年の計は元旦にあり” と言われるように、2018 年の年始に目標を立てた方も多くいらっしゃるかと思います。すでに目標を達成された方、現在目標に向かい邁進中の方、目標到達が困難な方と状況はそれぞれと思います。もちろん目標を達成することは大切なことですが、挑戦をするという行動そのものも非常に意味のあることだと思います。挑戦の過程において挫折や失敗を経験された方も多いとは思いますが、かの発明王トーマス・エジソンも 『それは失敗じゃなくて、その方法がうまくいかないことがわかったんだから成功なんだよ』 と言っています。偉人ですら “うまくいかないこと” を多く経験しているのですから、我々が “うまくいかないこと” を経験するのはごく当たり前のことではないのでしょうか。

皆様には、ラストスパートで 2018 年を締めくくっていただき、2019 年に向けて新たな目標を掲げ挑戦し続けていただきたいと思います。健康に気を付けてよい年末年始をお迎えください。

運営委員財務局長　田中宏征

第 39 回海外子女文芸作品コンクール入賞

はなみずき 8 月号でお知らせのとおり、本校から 33 名、計 69 作品を応募しましたが、このたび応募総数 39,369 点（224 校）の中から、本校児童 7 名の作品が入賞しました。 入賞したみなさん、おめでとうございます！ 惜しくも入賞を逃した作品もどれも力作でした。 来年度の海外子女文芸作品コンクールにもぜひ続けて応募してください。

★ 俳句の部 ★

優秀　小6　田畑　智也　「春風がぼくを押したよ新学期」
佳作　小5　磯部弘翔　「ベランダでカーディナルスがないている」
佳作　小5　伊藤太一　「町じゅうに桜満開ワシントン」
佳作　小5　花原菜陽　「はちがとぶ庭の草ぬきじゃまをする」
佳作　小5　山本穂花　「よちよちと親についてくがちょうの子」

★ 作文の部 ★

優秀　小6　林　優里奈「私の戦争」　佳作　小4　菅原　一惺「タレントショー」

公益財団法人
矢野恒太記念会より社会科データ資料集寄贈（年１回）
「日本の今、世界の今がデータでわかる！」
① 日本国勢図会 2018/19
② 世界国勢図会 2018/19
③ 日本のすがた 2018
図書室にあります

第 38 回運動会写真 DVD 49 枚
前年度 3 学期＋今年度入学式写真 DVD 追加 5 枚
販売合計 $270

ｱﾑﾈｯﾄﾄﾞﾈｰｼｮﾝ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 10 月$15

全額運営費へご協力ありがとうございます！！

今年度購入希望図書より 19 冊購入決定、入荷をお楽しみに！

私 の 戦 争

小学部 6 年　林　優里奈

私の毎日は、同じようで、同じでない。でも、毎週似たようなことがある。月曜から金曜日は現地校、土曜日は補習校、でも、日曜だけはちがう。そんな私の毎日を、これからしょうかいする。

私の一日は、戦争で始まる。それは、気持ちと気持ちの戦争だ。「まだねたい」という気持ちと、「さあ、起きよう」という気持ちが、いつも私の心の中で戦う。この戦争のせいで、私の目覚まし時計は、二段ベットの二階からゆかに投げられて、ボロボロだ。そんな私の目覚まし時計は、私が小学校一年生の時から使っている。それでもまだ私を起こそうとしてくれるのだから、感謝しなくてはいけない。

気持ちの戦争が終わると、私は次の新しい戦場へ向かう。現地校という戦場だ。そこにはたくさんの戦争がある。一つ目の戦争で、私はまず、自分と戦う。自分の発言と行動に後悔しないか、自分のやりたい事は何か、と考えているうちに、勝手に口と体が動いてしまって、結局最後は後悔してしまう。少しでもそうなる事を避けるために私は自分と戦う。二つめの戦争で、私は英語と戦う。言いたいことが言えない、伝わらない、これほどつらい事はないと私は思う。知っている人ならまだましだけれど、知らない人だと、どうしていいか分からなくて、にげ出してしまいたくなる。私はいつも、この事だけがこわくて、何度現地校に行きたくないと思ったか分からない。周りにいる日本人の子達はみんな、日本の学校よりアメリカの学校の方が楽しいと言う。私はその発言がまるで悪魔のように思えた。

私はこの地獄のような戦争を五回くり返して、天国のような場所にたどり着く。そう、その天国のような場所が、補習校だ。補習校は、友達とケンカしてしまっても、勉強が難しくても、楽しくない時はなかった。何があっても必ず、また来週行きたいと思わせるこの補習校には、まるで魔法でもかかっているようだ。もし、補習校がなかったら、私は現地校をとっくにあきらめて、どの戦争にもせを向けていただろう。だから、金曜日はおもしろいことがあるわけでもないのに、笑顔になって、今にもスキップしそうになる。明日が補習校というだけで、こんなにも喜んでしまう自分自身には、今だにおどろいている。

補習校が終わると、私のテンションはいっきに下がる。一週間の楽しみが終わって、また一週間土曜日までがんばらなくてはいけないと思うと、もう何もやりたくなくなる。でも、明日が日曜日だと思うと、下がっていたテンションが半分ぐらい上がる。明日は何とも戦わなくていいと思うと、気がぬける。今日はもうご飯を食べて、お風呂に入ってねるだけだ。でも、私はねつくまでに時間がかかる。夜は、今日あった事をふりかえったり、明日は何があるかとわくわくしながら本を読んだり、絵をかいたりする。ねむくなったら、私はベッドに入り、夢の世界に引きずり込まれる。どうやら私は、いい夢を見ると、朝に戦争をせずにすむらしい。でも、いい夢なんてそう簡単に毎回見られるものじゃない。だから私はいつも自分と戦う。でも、日曜日はお母さんと戦う。「休みだからって、いつまでもねていないで起きなさい。」といっておこられる。結局日曜日も戦わなくてはいけないと知った私はよけいに起きる気力をなくした。

私は毎日戦っているけれど、毎日「まったく同じもの」と戦っていない。よく同じものと戦っているけれど、それも三百六十五日すべての日ではない。でも、一つだけずっと戦っている「もの」がある。それは、「神様」だ。私は神様を信じている。でも、信じているのはその存在だけであって、神様を信頼してはいない。アメリカへ来てからは、更に信頼できなくなった。神様はまるで私が悲しんだり苦しんだりしているのをおもしろがっているようだった。他の人にはこの事が楽に見えても、私にとってはとても大きな岩をどんどん体につみ重ねられるようにつらかった。でも、私は戦う事をおぼえた。だから、私はそんな神様とも戦いながら、この大きな岩たちの重さを少しずつ、幸せの重さへと変えていきたいと思う。